



日本地球化学会ニュース

No. 243 December 2020

Contents

学会からのお知らせ	2
第15回日本地球化学会ショートコース報告書	
書評	3
生物圏と人智圏	

学会からのお知らせ

第15回日本地球化学会ショートコース報告書

2020年9月20日(日)に第15回ショートコースを開催した。今回は、新型コロナウイルス感染拡大の影響とその対策のため、弘前大学で当初予定されていた現地開催を中止し、オンライン開催へ移行した。

昨年度よりショートコースの開催は地球化学会・企画幹事が担当し、講師選定、開催案内、参加費徴収等を行うように変更していたが、今回は初めてのオンライン開催にあたり、通常とは異なる運営方式が必要であったため、若手会員を中心とする会員7名で運営委員会を組織した。

ショートコースの受講者は、会員59名(正会員33名、学生会員26名)、非会員25名(一般7名、学生18名)の合計84名であった。これまでのショートコースが年会前日に現地開催してきたのに対し、年会と独立した日程でオンライン開催となったことで、これまでとは異なる参加者構成となった。

今年のショートコースの内容は、海外からの講師の招聘や、フィールドや実験室からの中継動画を含めた講演など、オンライン開催ならではの企画を盛り込んだ。

当日のプログラムは下記の通りである。

スペシャル朝活セミナー(8:00-8:45)

Shuhei Ono 先生(マサチューセッツ工科大学): Abiotic methane generation on the Earth studied by clumped methane isotopologues

第一部: 地球化学を“深掘り”する(9:00-12:00)

石橋純一郎 先生(九州大学): 海底熱水活動の地球化学的理解—学際研究のすすめ—

菅沼悠介 先生(国立極地研): 極限フィールドワークから紐解く南極氷床変動メカニズム

黒川宏之 先生(東工大地球生命研): 惑星形成・進化の理論モデルと地球化学分析の接点

第二部: 地球化学者の生き様を学ぶ・感じる(13:00-15:15)

八田真理子 先生(ハワイ大学, JAMSTEC): 国際共同研究プロジェクト GEOTRACES とアメリカ生活

山崎敦子 先生(九州大学): サンゴ礁の総合研究

フィールド

馬上謙一 先生(北海道大学): 二次イオン質量分析法と宇宙地球化学への応用

第三部: 研究力をアップする(15:30-16:30)

斎藤恭一 先生(早稲田大学): 理系英語の学び方: 方向性と方法論

各講師の講演要旨はショートコースHP (<https://gsjevent.s2y.jp/2020/shortcourse/>) に引き続き掲載しており、また、同ウェブサイトにはショートコース後に行ったアンケートの結果も掲載している。アンケートの結果、参加しやすさ、また、場所を選ばず講師をお呼びできる面などから、今回のオンライン開催は多くの参加者にご満足いただき、バーチャルラボツアーや海外や喜界島からの中継も好評だった。

運営面では、Zoomシステムを用いてオンライン開催する上で、講師の先生方との事前打ち合わせ、運営委員会で聴講ルールや注意事項を検討し事前に参加者に共有するなど準備を重ね、当日も運営委員会のメンバーで分担し不測の事態に備えた体制を整えることで、結果的にトラブルなく運営することができた。また、ショートコースへの参加を機に入会した会員が7名以上いるなど、一定の開催意義を満たせたと考えている。

最後に、参加者をはじめ、若手研究者・学生に向けて大変有意義なご講演をして下さった講師の皆様、バーチャルラボツアー・フィールドツアー動画を作成して下さった先生方には心より感謝申し上げます。そして、開催に向けてサポートを頂いたオンライン年会LOCの皆様、特に会計幹事としてお力添えを頂いた浅原良浩さん(名古屋大)にはこの場をお借りして深謝いたします。

●会計報告

本ショートコースの参加費は、日本地球化学会会員は無料とし、非会員は1000円とした。オンライン開催として、会員は参加無料としたため、収支は赤字となっているが、新規会員の増加、若手会員の運営における経験が積めた点は収穫であったと考えている。

収入			支出		
人数	単価(円)	合計(円)	人数	単価(円)	合計(円)
25	1000	25000	4	10000	40000

補足事項

講師料は一部の先生はご辞退された。

2020年 日本地球化学会 ショートコース運営委員会
服部祥平（東工大）・尾崎和海（東邦大）・
橋口未奈子（名古屋大）・安藤卓人（島根大）・
日比谷由紀（JAMSTEC）・山田明憲（豊島電気）・
鍵 裕之（東大）



書評



『生物圏と人智圏』

Биосфера и Ноосфера

(V. I. ヴェルナツキー著 田所孝生 訳, A4版
400頁, 大妻女子大学人間生活文化研究所発行,
<https://www.ihcs.otsuma.ac.jp/>, ISBN : 978-4-907
136-25-3 2020年7月15日公開, 無償でPDFをダ
ウンロード可)

本書は、ヴラディーミル・イヴァノヴィチ・ヴェル
ナツキー (Владимир Иванович Вернад
ский) の著作・論文からの選集で、ヴェルナツ
キーの生誕150周年を記念して2013年に編纂・出版
されたものの翻訳版です。ヴェルナツキーは、V.

M. Goldschmidtらと並び称される地球化学の創始者
の一人で、生物地球化学の創始者です。地球化学の創
世期に関しては、松尾禎士(1988)が「日本地球化
学会の25年」で詳述しています(地球化学, 22,
123-137)。日本地球化学会会員にも、書店では見ら
れない本書を紹介した方がよいと考え書評を執筆する
ことにしました。

翻訳者は東京都立大学大学院の半谷高久研究室の仲
間で、大学院を修了後東京都で主に水道水水質管理関
係の仕事をしていた技術士、環境計量士ですが、地球
化学会会員ではありません。彼の年賀状によるとヴェ
ルナツキーの翻訳をしたが出版社が見つからず困って
いるとのことでした。良書であっても商業ベースに載
らなければ出版はできません。大妻女子大学の人間生
活文化研究所では無償で電子書籍の出版を行っている
ので、早速翻訳原稿を送信してもらい内容を確認し、
電子書籍で出してはどうかと提案したところ、是非出
版したいと話がまとまりました。

本書の構成は、ルドルフ・パランダインによる序文
「生物圏の学説、人智圏の夢想」と、本編の生物圏、
人智圏、社会評論の3部となっています。本編は単一
作品ではなく、発表年が異なるいくつかの著作・論文
からの選集であるため、統一性はありません。第1部
生物圏「概論1 宇宙における生物圏」、「概論2 生
命の領域」、第2部 人智圏「科学的世界観につい
て」、「惑星の現象としての科学的思考」、「人智圏につ
いて」、「現代科学における時間の問題」、「科学アカデ
ミー会員A. M. デボーリン氏の批評について」、第3
部 社会評論「ロモノーソフの日の社会的意義」、「戦
争と科学の進歩」、「ロシアにおける国家政治に関連し
た科学の課題」、「ロシア知識人と新しいロシア」の
10編から成っています。

ヴェルナツキーは地球化学の立場から、地殻と生命
物質の連携ばかりでなく人間の理知的認識に取り組み、
生物圏の概念を確立し、その発展段階として人智圏
(科学的思考と技術的活動の出現領域等)を構想し、
地球上における人間活動による環境の改変は、大きな
環境変化を招くと指摘しました。現在の地球温暖化や
環境破壊を示唆するものです。彼は非凡な科学史家で
あり、傑出した学術機関の創立者で、これらに加え戦
争と科学や国家政治に関連した科学の課題に関する論
などが社会評論に含まれております。

ヴェルナツキーが執筆したのが20世紀の前半であることから、現代科学から見て明らかに間違いのところがあります。それらの箇所やなじみの薄い人名、地名、専門用語は、翻訳者ができる範囲で調べ脚注に注釈をしており、大変読みやすくなっております。巻末には自作のヴェルナツキーの主要年譜を付けており、ロシア・ソ連の主な出来事と生涯の出来事が俯瞰できるようになっております。

わが国におけるヴェルナツキーの地球化学に関しては、フランス語版のLa Géochimie (1924, Paris) が1925年頃東大の柴田雄次一門の輪読会で使用されまし

た(松尾, 1988), また, ドイツ語増補改訂版 (Geochemie in ausgewählten. Kapiteln autorisierte, Uebersetzung von Dr. E. Kordes, Berlin, 1930) の邦訳「地球化学, 本文523頁」(高橋純一訳)が1933年に内田老鶴圃から出版されております。

本書は解説書ではなく学術書または論文です。じっくり考えながら熟読する必要があります。自然科学系の学生や教員, 生物学, 生態学, 環境学, 哲学および科学史の問題に関心を持つすべての人にとって, 大変有益な内容で一読を勧めます。

(大妻女子大学人間生活文化研究所 井上源喜)

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会, 書評, 研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上, 電子メールでの原稿を歓迎いたしますので, ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2021年3月頃を予定しています。ニュース原稿は2月中旬までにお送りいただくよう, お願いいたします。また, ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者 (日本地球化学会)

太田充恒
〒305-8567 つくば市東1-1-1
産業技術総合研究所地質情報研究部門
Tel: 029-861-3848; Fax: 029-861-3566
E-mail: news-hp@geochem.jp

角野浩史
〒153-0041 東京都目黒区駒場3-8-1
東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻
Tel: 03-5454-6741; Fax: 03-5454-6741
E-mail: news-hp@geochem.jp